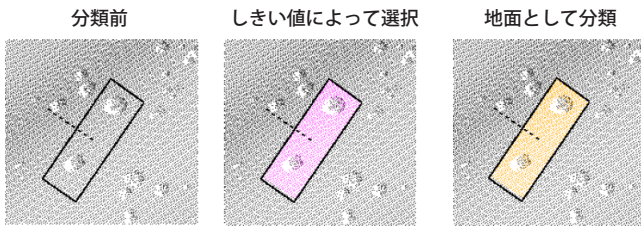
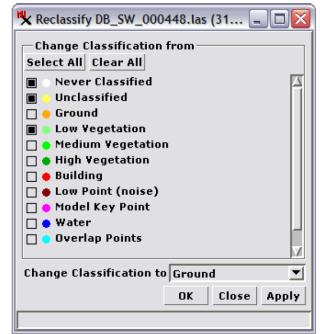
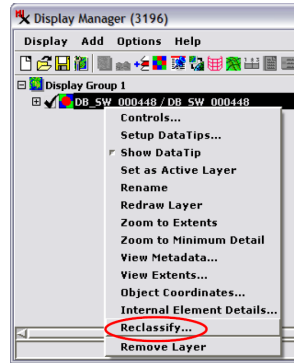


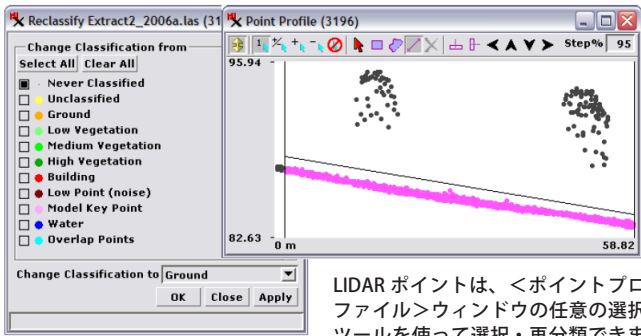
ポイントクラスの対話的編集

LAS形式のLIDARポイントファイルには、ファイル内に含まれている標準的な分類テーブル (Classification) に従って決められた分類フィールドが納められています。TNTmipsを使うと、シェイプオブジェクトとしてリンクされたLASファイル内の各ポイントの分類情報を直接対話的に変更できます。変更するには、まずLASシェイプオブジェクトを表示し、次に<表示マネージャ>においてシェイプレイヤ上でマウスを右クリックしてあらわれるメニューから、<再分類 (Reclassify)>ウィンドウを開きます (右図)。



<表示マネージャ>では、リンクされたLASファイルに対応するシェイプオブジェクトレイヤ上でマウスを右クリックしてメニューを表示し、[再分類]を選ぶことができます。

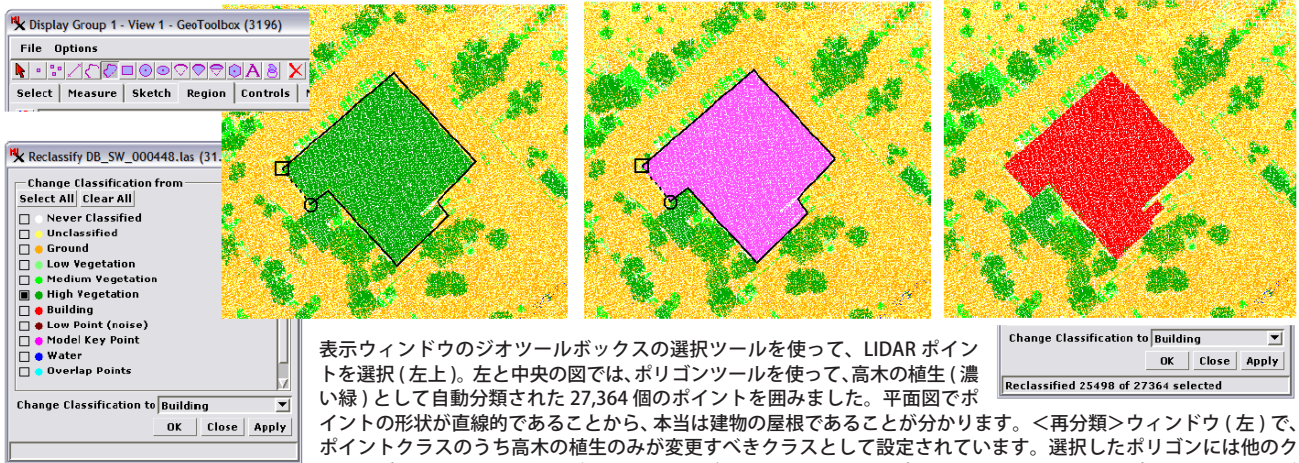
<再分類>ウィンドウでは、LAS形式のLIDARポイントのクラスを示す値一覧が表示されます。一覧から変更したいクラスを複数選択できます。[分類の変更先]メニューを使って出力クラスを1個だけ設定できます。



LIDARポイントは、<ポイントプロファイル>ウィンドウの任意の選択ツールを使って選択・再分類できます。この例では、地面に相当する未分類のポイントを、<ポイントプロファイル>内の[しきい値 (Threshold)] ツールを使って選択しています (3つのうち真中の図)。<再分類>ウィンドウを[一度も分類されていない (Never Classified)] ポイントを[地面 (Ground)]に変更するよう設定し (上図)、選択したポイントが再分類されました (3つのうち右の図)。

<再分類>ウィンドウ (上図) には、LAS形式のLIDARポイントクラスの値一覧がポイントスタイルとともに表示されます。変更するクラスは複数選択でき、[分類の変更先 (Change Classification to)] メニューを使って1つの出力クラスに変更できます。<ポイントプロファイル>ウィンドウの選択ツールを使って再分類するポイントを選べます (左図。テクニカルガイド「LIDAR: ポイントプロファイルツール (LIDAR: Point Profile Tool)」参照)。あるいは表示ウィンドウのジオツールボックスの選択ツールを使っても選択できます (下図)。入出力クラスを設定し、複数のLIDARポイントを選択したら、<再分類>ウィンドウで[OK] または [適用] ボタンを押します。選んだポイントのうち、設定した入力クラスに合うものだけが再分類されます。

本来は建造物だが、高木の植生として分類されたポイント 表示ウィンドウでポリゴンを使って選択 建造物として再分類



表示ウィンドウのジオツールボックスの選択ツールを使って、LIDARポイントを選択 (左上)。左と中央の図では、ポリゴンツールを使って、高木の植生 (濃い緑) として自動分類された 27,364 個のポイントを囲みました。平面図でポイントの形状が直線的であることから、本当は建物の屋根であることが分かります。<再分類>ウィンドウ (左) で、ポイントクラスのうち高木の植生のみが変更すべきクラスとして設定されています。選択したポリゴンには他のクラスのポイントも含む可能性があります。わずか数秒で、選択したポイントの内、25,498 個のポイントのクラスが再分類されました (<再分類>ウィンドウ下のステータスラインに表示)。